HEAVY NEUTRAL LEPTONS AT ILC BEAM DUMP EXPERIMENTS MIHOKO M. NOJIRI (THEORY CENTERKEK)

WITH Y. SAKAKI(RSC, KEK), TOBIOKA(FLORIDA STATE), UEDA(CHEP, PEKING) 2206.13523

SEE ALSO GIFFIN, GORI, TSAI, TUKLER 2206.13745

HEAVY NEUTRAL LEPTONS AT ILC BEAM DUMP EXPERIMENTS

MIHOKO M. NOJIRI (THEORY CENTER, KEK) WITH Y. SAKAKI(RSC, KEK), TOBIOKA(FLORIDA STATE), UEDA(CHEP, PEKING) 2206.13523

SEE ALSO GIFFIN, GORI, TSAI, TUKLER 2206.13745

トークの流れ

- Heavy Neutral Lepton (Right Hand Neutrino) について 相互作用の 特徴
- ILC e^+e^- collider at $\sqrt{s} = 250$ GeV → beam dump 実験
- beam dump の中でのビームの発展 イベント数を計算する上で必要 な要素
- 他の実験計画との比較
- もう少しやらないといけないこと(反省点)

HEAVY NEUTRAL LEPTON について

D

 ν_I

N

$$\mathcal{L} = -\lambda_{\ell I} (\bar{L}_{\ell} \tilde{H}) N_I - \frac{1}{2} M_I \bar{N}_I^c N_I + \text{h.c.},$$

•相互作用

• neutrino mass matrix
$$m_{\nu,ll'} = \sum_{I} \lambda_{lI} \lambda_{l'I} v^2 / M_I$$

・ニュートリノと HNL 混合

 $U_{\ell I} = \frac{v \lambda_{\ell I}}{M_{I}}$: ニュートリノが生成されるところにはどこでもHNL が生成されうる。

(cross section, Br はニュートリノ \rightarrow N に置き換えて U^2 をかけたもの)

Motivation: (vMSSM)

ダークマター

バリオン数生成(Nの振動→レプトン数生成→バリオン数)

Akhmedev, Rubakov and Smirnov

T. Asaka and M. Shaposhnikov, The vMSM, dark matter and baryon asymmetry of the universe, Phys. Lett. B 620 (2005) 17–26

興味のあるパラメータ



(多少アドホックなパラメータチョイスだが)

宇宙のバリオン数は「縮退しているHeavy lepton」 があると

説明することができる $M_{N_2} \sim M_{N_3}$

plot from Dark Matter, Baryogenesis and Neutrino Oscillations from Right Handed Neutrinos PRD Phys.Rev.D 87 (2013) 093006



加速器実験でのLLPの探索



加速器の構成

* Injection

* 加速

* 衝突点(高いエネルギー衝突)

* beam dump (proton or electron)
 baam dump (ビームのゴミ箱)
 円形加速器:ビームが広がったり、
 それたりした時に、
 放棄する場所

線形加速器:毎回捨てる





HEAVY NEUTRAL LEPTONの探索実験の概略



[PARTICLE FLOW]

- ・知りたい量 Nの生成数と運動量(Nの飛ぶ長さの決定に重要)
- 電子ビームがbeam dump のなかでどのように発展するか
 - EM shower $\rightarrow e, \mu, \tau, \gamma$
 - 特徴 electron のエネルギーが高いので、photon等のエネル ギーもそれなりに大きい。
 - (e, γ)-N interaction → hadrons→ weak decay するハドロン
 - ・ 粒子のエネルギー減衰(物質と粒子の相互作用)



HEAVY NEUTRAL LEPTONの生成

生成

- 1. レプトン→ Heavy neutral lepton (direct production by charged current)
- 2. 重い粒子 (Meson tau などの崩壊)



DIRECT PRODUCTION SIGNAL

生成断面積はUによる

• $N_{\text{signal}} = N_{EOT} \sum_{i=e^{\pm}, \mu^{\pm}, \dots} \int dE_i \frac{d\ell_i}{dE_i} n_{nucl} \sum_{f=n, p} \int d\Pi \frac{d\sigma(if \to NX)}{d\Pi}$ $\times Br_{vis}Acc_{dump}(N)$ е... どういうfinal 粒子がでるかは Life time はUに依存 Uによる(今は $\nu_{e,\mu,\tau}$ のどれかに混ざっている decay volume への届きかた とする) をコントロール

ハドロン生成→N の評価

 $\frac{dN_k}{dE_k} = \int dE_\gamma \frac{dl_\gamma}{dE_\gamma} \times n_{\text{nucleus}} \times \int d\Pi_X \frac{d\sigma_\gamma \text{ nucleus} \to kX}{dE_k d\Pi_X}$

解析的に計算できない

 σ (γ N→ hadron) (PHITS PYTHIA など) +hadron と物質相互作用(PHITS) PHITS: KEKで開発 医療用 適宜GEANT と比較 (K meson くらいまで pythia: D B の生成を評価するのに利用 *decay からN が生成される可能性がある。 * $U_{3N}(\nu_{\tau} - N$ 混合)を測定するためには τ 生成が必要 Ds(cs)→T (分岐比 5%) $\gamma N \rightarrow \tau \tau X$ は PHITS を拡張



少数統計についての注意



その事象に低い存在確率 w << 1を割り当てる

PYTHIA でのD, B 生成の評価

- PYTHIA 非常に古くからある、事象生成プログラム
- 様々な素粒子実験(初期状態)に対応
- 重心系のcross section のデータテーブルを作り、それをローレンツブーストして原子核の静止系での断面積を求めて、PYITS に組み込む



- PYTHIA は r N の原子核の実験データ(重心系エネ non-diffractive(空間的に均等に分布)
 ルギーで20GeV くらいまで)のデータを再現
 - ・ 低エネルギー: non-diffractive 相互作用(非摂動的 な相互作用→実験データが必要)
 - 高いエネルギー: parton-photon の相互作用



direct production

ハドロンの物質中での減速

メソンはさらにhadronic 相互作用をする。

寿命が長いほど、Nの運動量に関係する崩壊時のエネルギーが低くなる(acceptance に影響)



MESON DECAY



Figure 14. The same plot as Fig. 12 but for beauty mesons.

7

 $B^0 \rightarrow D^{+*} + e + HNL$

----- $B^0 \rightarrow \pi^+ + e + HNL$

10⁻⁵

10⁻⁶

0

1

2

3

m_{HNL} [GeV]

5

4

6

信号の効率とバックグラウンド

Decay volume で崩壊し、その粒子が複数測定器に入ることが必要. 適切なライフタ イム(O(10~100m)とブーストが必要

Background は? beam dump からの大量の v -> 原子核との相互作用が、 muon シールドの終端でおこるー>π, K とかがフラフラ現れ崩壊する。 (SHiP などのstudy から)

複数トラックとNの運動量が beam dump から来たことと整合していること を要求すると相当バックグラウンドは落ちる。どこまで測定器を頑張るかだが 荷電粒子の測定は安い。中性粒子(γ)の測定は高く効率が悪い。



HNL のDECAYパターン





実線: 実線は10年の運転で 3 visible イベント (3vは除いたが π 0モード等が入っている) muon shield からでてくるbackground も考慮して、 10^{-3} $n_{ch} \ge 2$ で10.9 イベントをsensitivity のある領域と変更する予定。 図の変化はe,µに関してはないない。 競合する論文2206.13745 は1年で10 event で評価. charm Other hold でみると Faser 2 より少し悪い(detector set up dependent) EM shower、粒子減速の効果の評価、多段プロセスのハド 0^{-3} 生成なたの来、込みが我々と比べると不十分

BEAM DUMP 以外の制限と他の将来計画





HEAVY NEUTRAL LEPTON SEARCH の面白さ

- axion like particle search などと比べると、生成過程、崩壊仮定が複
 雑。 N の親粒子として考えないといけないもの e⁺, e⁻, Y, μ, T, K, D, B
- 複数の生成モードが重要

charged current $e \rightarrow N$ etc ,

Meson decay (mass に対する依存性)

linear collider の特殊性(beam dump に多数の電子が当たる)
 proton のビームダンプ実験に比べると1ビーム粒子あたりのハドロン
 は少ないはずだが、それでも同等程度までいく。

KEK fixed target experiment



Ishikawa, Sakaki, Takubo 2107.06431



New regions can be explored.

Complementary to the main beam dump experiment.

Small setup

LHC実験とLONG LIVED PARTICLE: FASER



